



関西経済レポート(1月号)

- ➡ 11月の関西の鋳工業生産は、前月比2カ月ぶりの低下だが、緩やかな回復が続いている。
- ➡ 輸入の伸びが輸出のそれを上回る傾向が続いており、12月の貿易収支は4カ月連続の赤字。結果、2013年は1979年以来初の貿易赤字となった。
- ➡ 12月の消費者マインドは高水準を維持するも、消費増税後の懸念が先行指標に表れはじめた。
- ➡ 12月の大型小売店販売額は5カ月連続の前年比プラスと好調を維持。新設住宅着工は貸家を中心に4カ月連続の前年比プラス。
- ➡ 12月の有効求人倍率は前月比0.02ポイント上昇。2007年12月以降の最高値を更新。失業率は同横ばいの3.9%。4%を割り込むのは2008年3月以来。
- ➡ 11月の建設工事は堅調な増加。12月の公共工事受注額は2カ月ぶりの前年比プラス。
- ➡ 2013年中国実質GDPの成長率は+7.7%となり、前年(+7.8%)より幾分減速した。

※「近畿」・「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。
鋳工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

～目次～

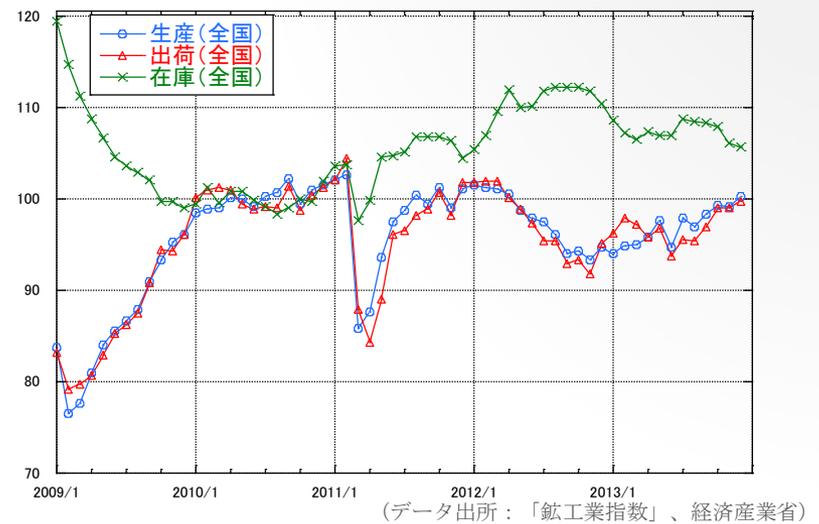
生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

～生産～

鉱工業指数の推移(近畿・2013年11月まで), 2010年=100



鉱工業指数の推移(全国・2013年12月まで), 2010年=100

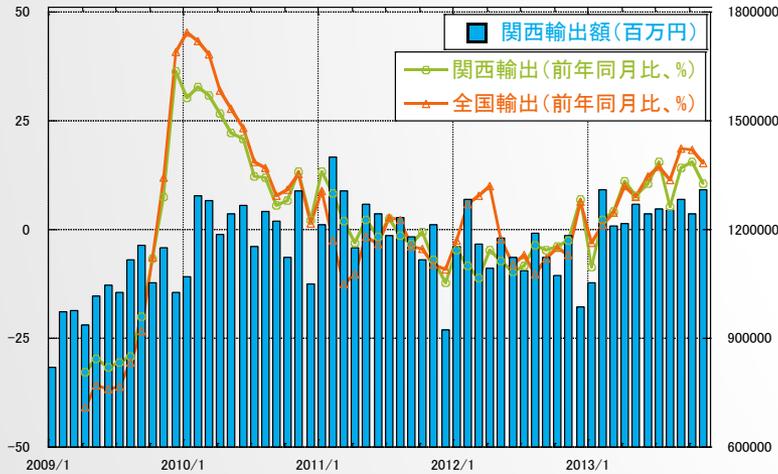


- 今月の確報から統計の基準年が平成22年度に変更された。関西における11月の鉱工業生産指数(確報値: 季節調整済)を見ると、生産は104.8で前月比-1.2%と2カ月ぶりの低下。出荷は102.8で同+1.0%と2カ月連続の上昇。在庫は112.7で同-1.2%と3カ月ぶりの低下となっている。
- 業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(-7.9%)、電子部品・デバイス(-5.5%)、金属製品(-7.0%)等が前月から低下した。一方、輸送機械(除. 航空機・鋼船・鉄道車両)(+7.9%)、情報通信機械(+12.1%)、電気機械(+3.7%)等が上昇した。
- 2013年の期間平均を見ると、4-6月期(前期比+1.0%)、7-9月期(同+1.2%)に続いて、10-11月平均は7-9月期比+0.8%と緩やかな回復を続けている。
- 足下、生産は減少しているが、期間平均で見れば緩やかな回復の動きが見られる。

- 全国における12月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は100.3となり前月比+1.1%で2カ月ぶりの上昇となった。出荷は99.7で同+0.6%と4カ月連続の上昇、在庫は105.7で同-0.4%と5カ月連続の減少。
- 結果、10-12月期は前期比+1.9%と4期連続のプラス(7-9月期: 同+1.7%、4-6月期: 同+1.5%)となったが、通年の生産水準は前年から0.8ポイント低下した。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械、金属製品、電子部品・デバイス等が上昇。一方、情報通信機械、繊維等が低下。
- 生産予測調査によると、1月の製造工業は前月比+6.1%、2月は同+0.3%と増産が見込まれている。1月の増産は駆け込みで備えたものと考えられる。

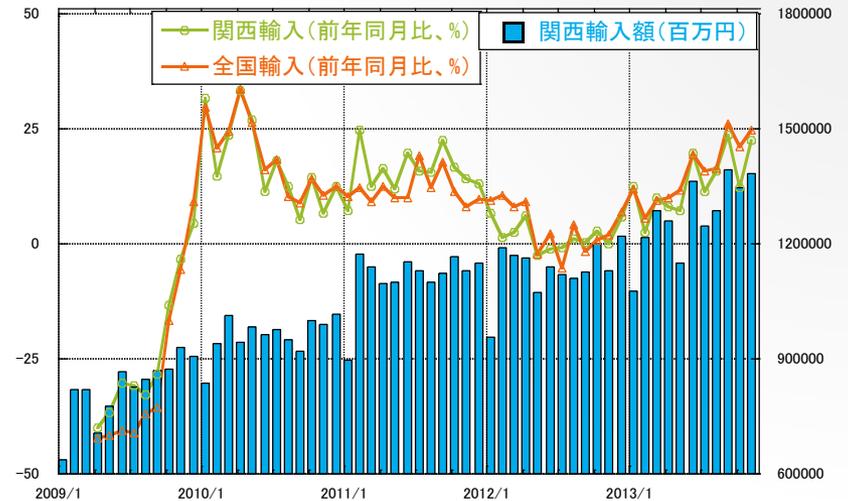
～輸出入～

輸出動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2013年12月まで)



(データ出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課)

輸入動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2013年12月まで)



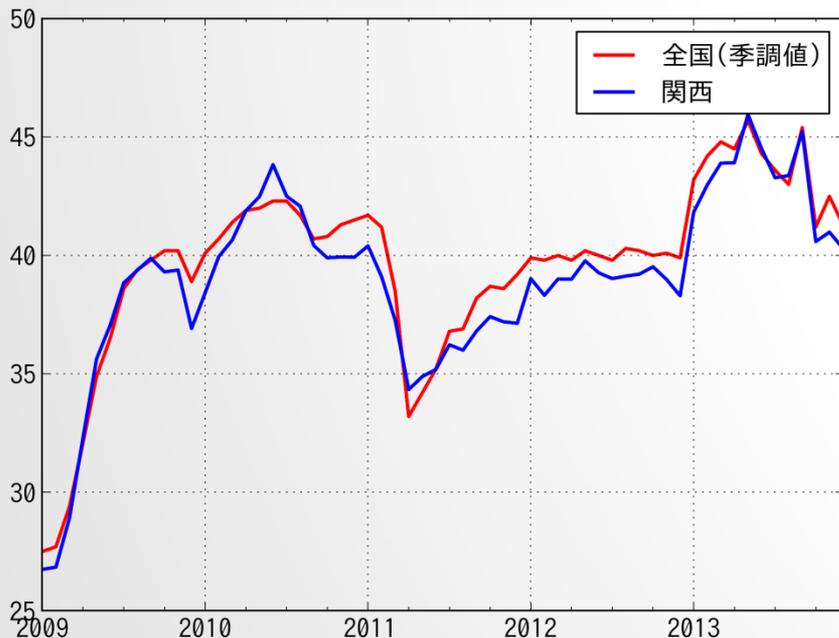
(データ出所：「財務省貿易統計」、財務省)

- 関西12月の輸出額 (速報値) は1兆3,093億円、前年同月比+10.6%と10カ月連続の増加。
- 輸出は、鉄鋼、有機化合物、事務用機器を中心に増加。
- 前年同期比で見ると、10-12月期は+13.4%と3期連続で増加してきている(7-9月期：同+10.4%、4-6月期：同+7.6%、1-3月期：同-0.2%)。
- 全国12月の輸出額 (速報値) は6兆1,105億円、前年同月比+15.3%と10カ月連続の増加。
- 関西の輸出を地域別にみると、12月はアジア(前年同月比+8.8%)、中国(同+21.1%)、米国(同+12.9%)、EU向け(同+14.5%)輸出はいずれも増加を続けている。
- 結果、2013年の関西の貿易収支は1979年以来初の赤字となった。

- 関西12月の輸入額 (速報値) は1兆3,844億円、前年同月比+22.5%と12カ月連続の増加。
- 天然ガス及び製造ガス、通信機、半導体等電子部品は、単月ではいずれも過去最高値を更新し、輸入は大幅に増加してきている。
- 前年同期比で見ると、10-12月期は+19.3%となり、7-9月期(同+15.7%)、4-6月期(同+8.5%)、1-3月期(同+6.6%)と伸びは加速している。
- 全国12月の輸入額 (速報値) は7兆4,126億円、前年同月比+24.7%と14カ月連続の増加。
- 結果、全国の貿易収支は-1兆3,021億円と18カ月連続の赤字。貿易収支は関西、全国共に赤字が続いている。

～消費者センチメント～

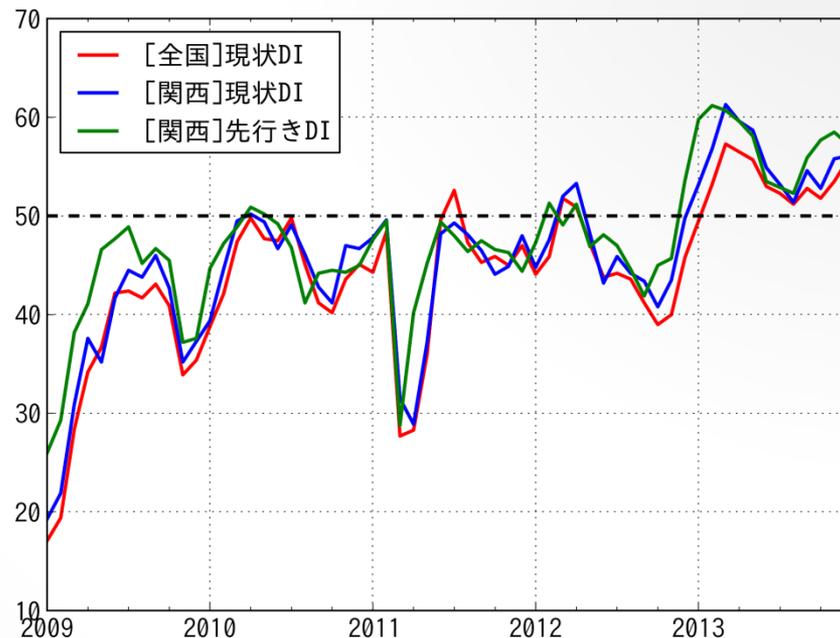
消費者態度指数(原数値、2013年12月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成26年1月17日公表)

- 関西の12月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.7ポイント下落の40.3。2カ月ぶりのマイナス。
- 同指数の構成項目をみると、「雇用環境」指標を除く3指標が前月から悪化。「暮らし向き」が同-1.1ポイント、「収入の増え方」が同-0.4ポイントといずれも2カ月ぶりのマイナス。「耐久消費財の買い判断」は3カ月連続のマイナスとなり、同-1.5ポイントと落ち込みが大きい。一方、「雇用環境」は同+0.3ポイントと2カ月連続で上昇しているが、伸びは前月(同+1.0ポイント)から鈍化。
- 全国の12月の消費者態度指数(季節調整値)は41.3となり、同-1.2ポイントと2カ月ぶりに前月から悪化。

景気ウォッチャー調査(2013年12月まで)

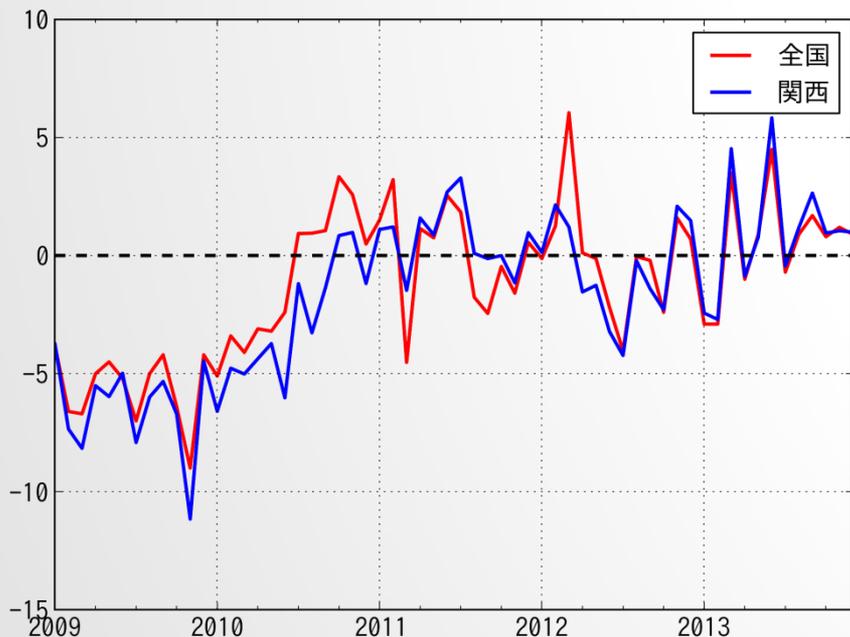


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年1月14日公表)

- 関西の12月の現状判断DIは前月比+0.3ポイントの56.1と2カ月連続の上昇。
- 全国の現状判断DIも同+2.2ポイントの55.7と2カ月連続で上昇。関西に比して全国の改善幅は大きい。
- 乗用車や家電を中心とする駆け込み需要の動きが影響している。
- 一方、関西の先行き判断DIは同-1.2ポイントの57.3、全国の先行き判断DIも同-0.1ポイントの54.7といずれも4カ月ぶりに下落。消費増税後の懸念が指標に表れているようである。

～個人消費・住宅～

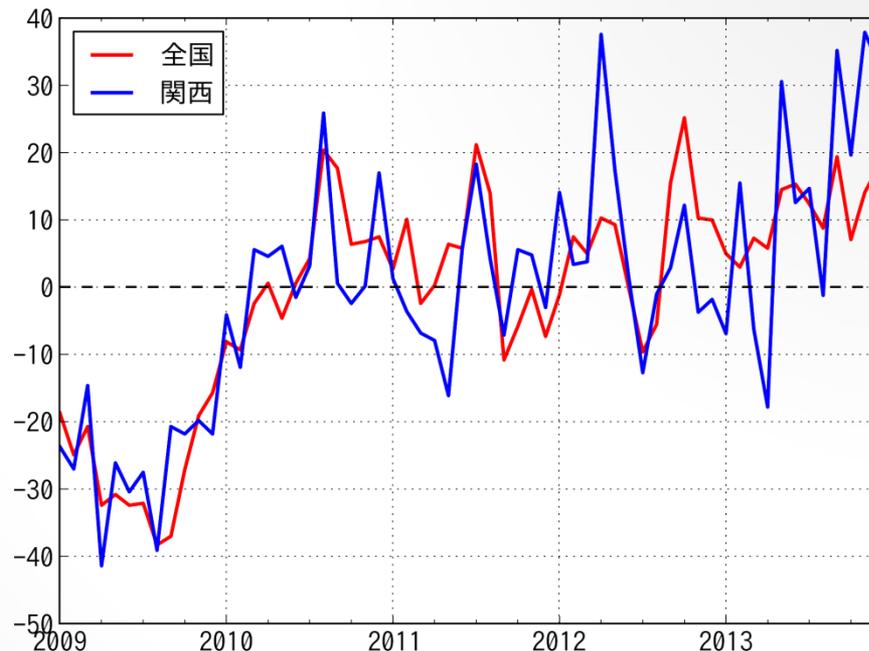
大型小売店販売額(前年同月比:%、2013年12月まで)



(注)福井県を含む。
(出所)経済産業省「商業動態統計」(平成25年1月30日公表)

- 関西の12月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.0%と5カ月連続のプラス。
- 百貨店も同+2.3%と5カ月連続のプラス。
- スーパーは同-0.0%と4カ月ぶりのマイナス。
- なお全国でも、12月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.9%と5カ月連続のプラスとなっている。

新設住宅着工(前年同月比:%、2013年12月まで)

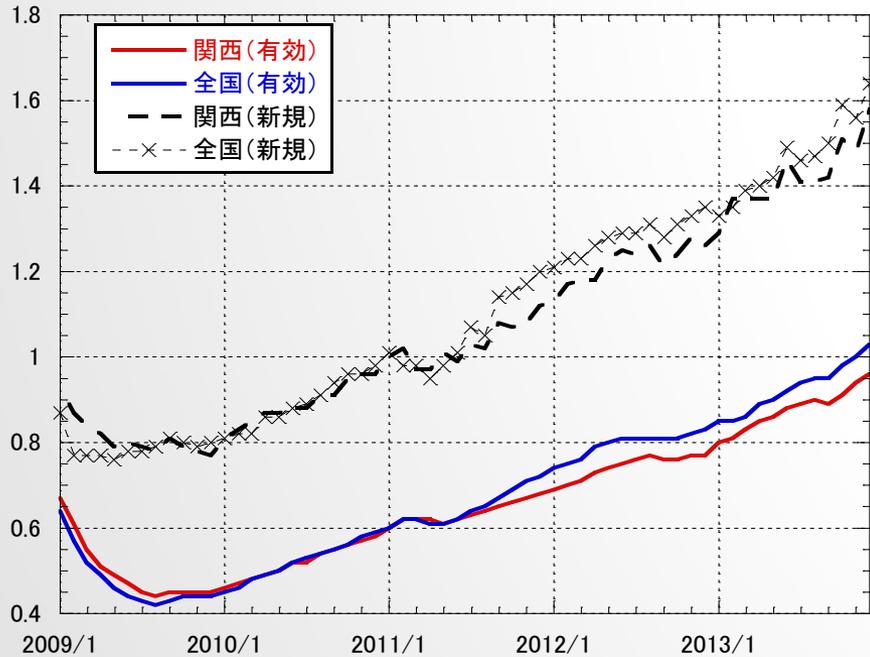


(出所):国土交通省「住宅着工統計」(平成25年1月31日公表)

- 関西の12月の新設住宅着工戸数は14,737戸。前年同月比+33.1%と4カ月連続で上昇。
- 利用関係別にみると、持家は同+22.5%と11カ月連続の上昇、貸家が同+49.2%と6カ月連続の上昇。分譲も同+28.5%と4カ月連続で上昇した。
- 全国の新設住宅着工戸数は同+18.0%と16カ月連続で上昇。
- 12月の関西マンション契約率(出所:不動産経済研究所「マンション市場動向」)は69.9%(季節調整値、APIR推計)。原数値(69.7)とともに好不調の目安とされる70%を22カ月ぶりに下回った。
- 注文住宅を消費税5%で購入できる請負契約の期限は過ぎたものの、相続税制改正に伴う節税対策もあり、住宅市場は貸家を中心に好調を維持している。

～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2013年12月まで）



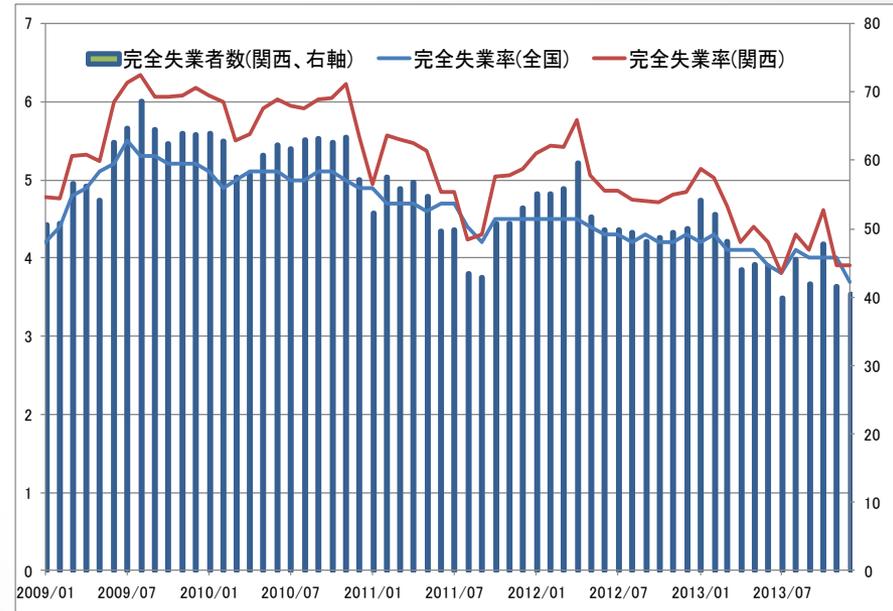
(出所) 厚生労働省(2014年1月31日公表)

関西2府4県有効求人倍率(2013年12月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
12月	1.03	0.96	0.95	0.96	1.06	0.81	0.91	0.95
11月	1.00	0.94	0.91	0.96	1.03	0.78	0.89	0.96

- 12月の関西の有効求人倍率は0.96倍、前月から0.02ポイントの上昇。3か月連続の改善となった。2007年12月以降の最高値(0.98)を更新。
- 全国は1.03倍で、先月から0.03ポイント上昇。3か月連続の上昇となった。
- 12月の新規求人倍率は、関西は1.58倍と前月より0.10ポイント上昇。全国は1.64倍と同0.08ポイントの上昇となった。
- 関西の有効求人倍率を府県別に見ると、大阪府は全国平均を上回り1.06となった。その他の府県は全国平均を下回った。

完全失業率の推移（季節調整値：％、2013年12月まで）

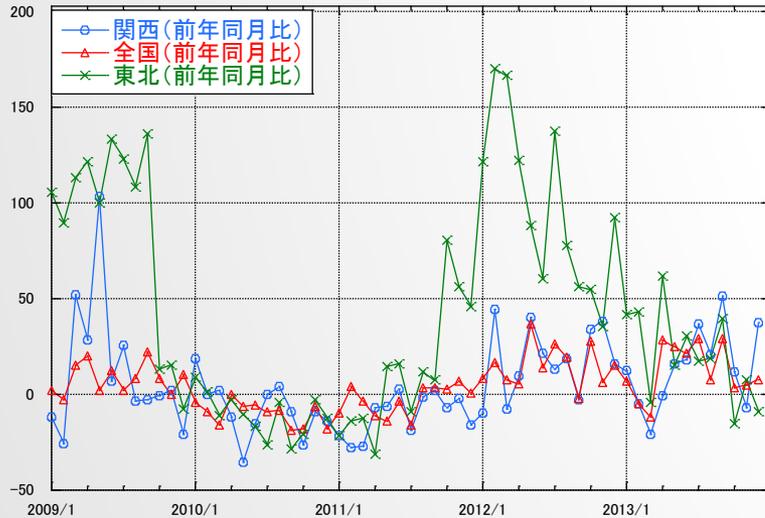


(出所) 総務省「労働調査」(2014年1月31日公表)

- 12月の関西の完全失業率（季節調整値：APIR推計）は、前月とほぼ横ばいの3.9%となった。4%を割り込むのは、2008年3月以来である。
- 全国の完全失業率（季節調整値）は3.7%となり、前月から0.3%ポイント低下。2007年12月以来の低水準である。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は40.5万人。前月から1.0万人減少した。

～公共投資～

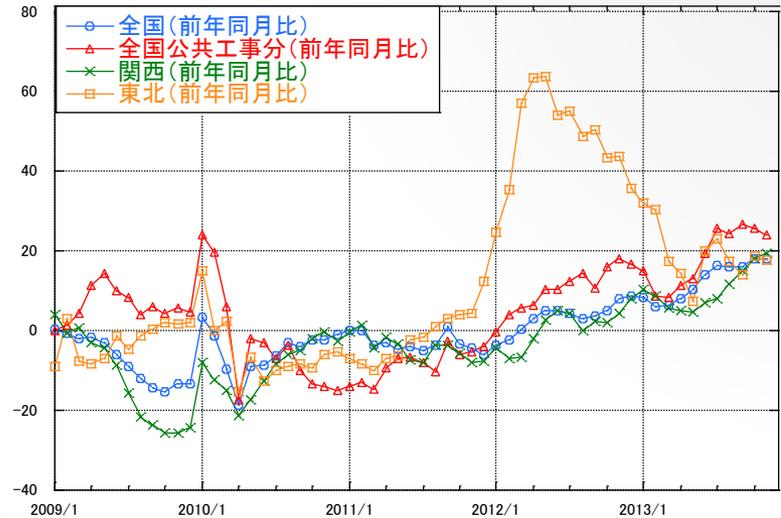
公共工事請負額(前年同月比:%、2013年12月まで)



(注) 福井県を含む。
(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

- 関西12月の公共工事請負金額は1,126億円。前年同月比+37.8%と2カ月ぶりのプラス。
- 全国は8,860億円と同+7.5%と9カ月連続のプラス。
- 東北は1,442億円で同-8.7%と、2カ月ぶりのマイナス。東北は前年の水準が高いため伸びに陰りが見られる。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は3カ月ぶりのプラス(関西：前月比+21.0%)、全国は2カ月ぶりのプラス(全国：同+4.7%)となった。

建設工事(前年同月比:%、2013年11月まで)

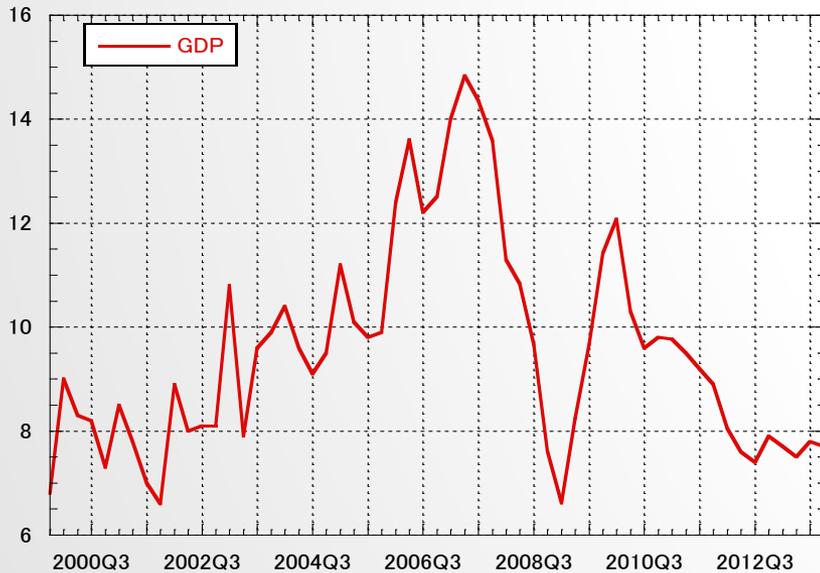


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西における11月の建設工事は5,695億円。前年同月比+19.3%と19カ月連続のプラス。伸び率は拡大を続けている。
- 東北は5,898億円と同+17.6%となった。28カ月連続のプラス。
- 全国の建設工事は4兆7,797億円となり、同+17.9%と21カ月連続のプラス。
- 全国の建設工事(公共)は2兆1,715億円、同+24.2と22カ月連続のプラス。いずれの地域も、建設工事の伸びは堅調に推移している。

～中国経済動向①～

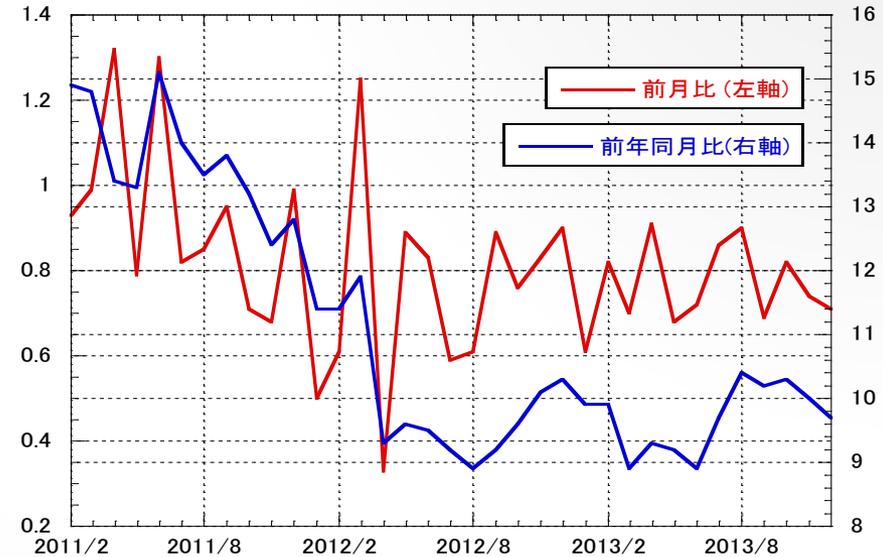
中国実質GDP成長率
(2013年第4四半期まで; 前年度同期比: %)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 中国2013年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.7%となった。7-9月期の同+7.8%と比べて幾分減速し、8%を下回る成長率が8期続いている。
- 結果、2013年実質GDPの成長率は+7.7%となり、前年(+7.8%)より幾分減速した。
- 業種別にみると、第1次産業の成長率は+4.0%、第2次産業は+7.8%、第3次産業は+8.3%となった。

工業生産動向(2014年12月まで: %)

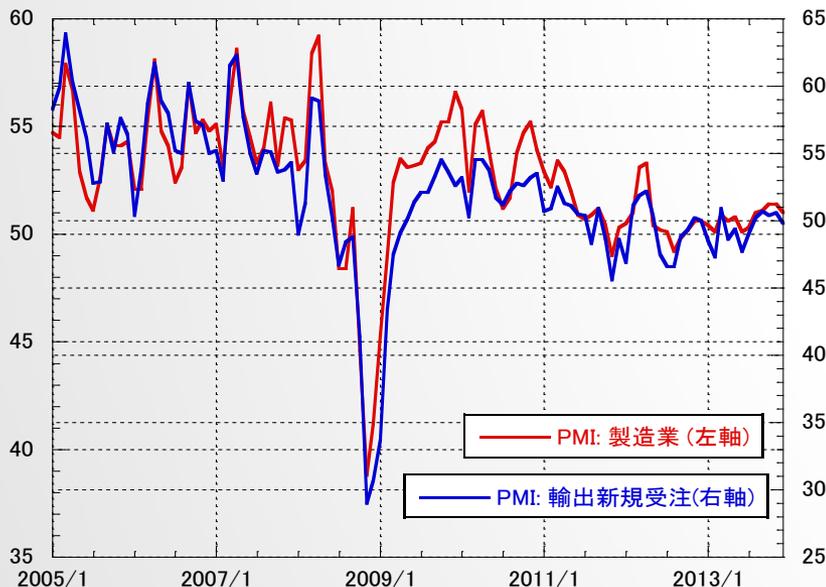


出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 12月の工業生産は前月比+0.7%となり、前月と同じ伸びである。前年同月比で見れば、12月は同+9.7%と前月(+10.0%)より幾分減速し、2カ月連続の減速となった。結果、2013年の工業生産は前年比+9.7%となり、前年(+10.0%)から幾分減速した。
- 産業別に見ると、12月は化学原料・製品製造業(前年同月比+12.6%)、自動車製造業(同+20.8%)、電気機械・機材製造業(同+11.0%)が高い伸びを示す一方、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+7.7%)と電力・熱力の生産・供給業(同+5.2%)の伸びは比較的低調であった。

～中国経済動向②～

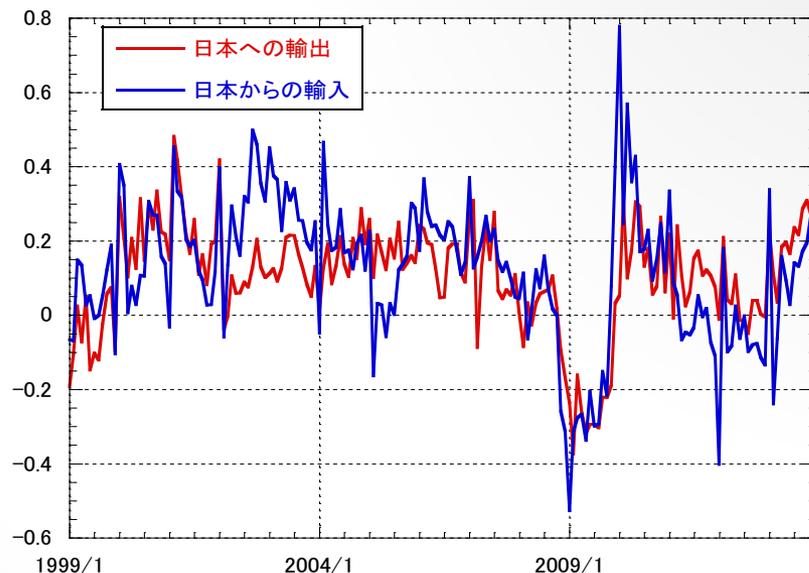
中国製造業購買担当者景況指数 (2013年12月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 製造業の購買担当者景況指数(PMI)は、12月に51.0となり前月より0.4ポイント低下。うち、生産指数は53.9となり、前月(54.5)より0.6ポイント低下し、6カ月ぶりの悪化となった、輸出新規受注指数は49.8となり、前月(50.6)より0.8ポイントと大幅に低下し、好不調の目安とされる50を下回るようになった。さらに、新規受注指数は52.0となり、前月より0.3ポイント低下した。また、12月の雇用指数は48.7となり、前月(49.6)から0.9ポイント低下した。
- 12月に製造業PMI指標の悪化は、輸出先におけるクリスマス関連製品需要のピークが過ぎたことによる輸出の低迷と、中国の春節が近づくことによる生産・需要の減少の影響によるものと分析されているが、経済成長の更なる減速が懸念されている。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2013年12月まで:%)



出所：中国労働市場情報観測センター;CEICデータベース

- 中国の輸出額(確定値、ドル・ベース)は12月に前年同月比+4.3%と前月(同+12.8%、確定値)より大幅に減速した。輸入額は同+8.3%(確定値)と前月の伸び(同+5.3%、確定値)から加速した。
- うち日本への輸出額は同+5.5%となり、前月(同+2.9%)から増加した。一方、日本からの輸入額は同+8.2%と前月(同+2.3%)と大きく加速した。チャイナリスクの影響は更に緩んできたようである。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+30.5%と(前月+27.3%)、日本からの輸入額は同+33.8%と(前月+26.5%)といずれも大幅に上昇した。